

新古今 歳時記

平成 28年2月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
今月は、通年より1日多い29日まであり、1年366日と4年ぶりの閏年となる。次回の閏年は、オリンピックイヤーとなる4年後、東京オリンピック開催の年である。



写真：雪山の剣山山頂、奥に次郎賢

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月
新暦・旧暦	みずのと 五黄仏滅 うし 旧 12.23	きのえ 六白大安 とら 旧 12.24	きのと 七赤赤口 う 旧 12.25	ひのえ 八白先勝 たつ 旧 12.26	ひのと 九紫友引 み 旧 12.27	つちのえ 一白先負 うま 旧 12.28	つちのと 二黒仏滅 ひつじ 旧 12.29	かのえ 三碧先勝 さる 旧 11.1	かのと 四緑友引 とり 旧 11.2	みずのえ 五黄先負 いぬ 旧 11.3	みずのと 六白仏滅 い 旧 11.4	きのえ 七赤大安 ね 旧 11.5	きのと 八白赤口 うし 旧 11.6
雑節・祝日			節分 旧 12.25	立春 旧 12.26		初午 はつうま 旧 12.28	北方領土の日 旧 12.29	針供養 旧正月 旧 11.1			建国記念日 三りんぼつ 旧 11.4		
祭・イベント			3日 神火大祭 (鳴門市大麻比古神社)					5〜7日 デジ絵コン (四国大学交流プラザ)	8〜10日 旧正月「神迎祭」 (鳴門市大麻比古神社)		11・12日 薬王寺初会式 (美波町)		
季節の風物詩		鶏始乳 にわとりはじめてとむにつく	ザゼンソウ咲く		東風解凍 はるかぜこおりをとく		ウメ咲く		黄鶯睨皖 こつあけんかんす				

※掲載のイベント情報は、都合により変更する場合もありますので、ご了承ください。

昔

64年前の連載より

今年の節分は一月の四日にあたる。鬼は外、福は内、という豆をまきはじめると、急いで戸障子を閉める音がかしましく聞こえたのは遠い昔のように思う。眼突こハナ突こにたとえて、葉のどがつたヒイラギの枝を鬼の入れぬようにと門口にさしたり、年の数だけの豆をたべると延命息災になると願い、さらにこの日を「日見ず」といつて婚礼の式をあげるのが例えになっているが、農村では花嫁のこし入に大勢の若衆が寄つてたかつてシリをたく風習があつた。たたかれる嫁さんは幸運を招くといつので、痛い目にあわされるほど喜んだのは、まだ私が知つてゐるくらいだから、そつ古い話ではない。

節分といつと、京阪地方の風習が伝わつて毎年はずだのにお化の変装がある。年を新たに若返る意味から、「コシ」の曲がつた婆さんが段鹿子の振そでにこつてりと厚化粧をして、すまして歩く姿を見られるのが節分の日の景物だつた。明治卅七、八年ごろか、私が富田町の女将や芸妓連中にたのまれ、何か変わった趣向といつので考えたのがおいらん道中、

ゝだつた。当時は芸妓の名をしるした掛行燈が軒を並べていたので、花街情調にふさわしい催であつたがやがて趣味が近代好みに移つて、昔風のお染やお三輪といった歌舞伎系統のお化はすつかりとあとを断ち、いまではただ古風マゲの結髪だけがわずかにお化の名残りをとどめている。

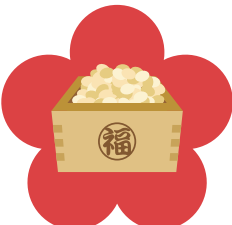
農村ではこの二月にあたる年の夜に「お祝そ」といつて男子が女装したり、村の人がいろんな変装をして友人知己の家を訪れ、ごちそうになる風習が最近まで毎年繰り返されてきた。

二月の行事で思い出されるのは初午の日に、北山路の天神社内に鎮座する稻荷さんの前で催した「みずのもの」の大会であつた。婚礼の式場に用いる島台の上のじよつとつばつるとかめなぞがその定式であるが、この日の展覧に限つてとても大がかりで、境内狭しととり囲んだ小屋がけには、こりにこつた細工が出品され、実にまばゆいような美しさだつた。

材料は主として大根であつたがゴボウをうすく切つて重ねたのがひろげたワシの羽根になり、人じんてこしらへた羽衣を松の枝にかけ、「コイ」の渾のほりから竜宮を背景にしてカメに乗つた、

2 水	1 火	29 月	28 日	27 土	26 金	25 木	24 水	23 火	22 月	21 日	20 土	19 金	18 木	17 水	16 火	15 月	14 日
八白赤口 みずのと ひつじ 旧 1.24	七赤大安 みずのえ うま 旧 1.23	六白仏滅 かのと み 旧 1.22	五黄先負 かのえ たつ 旧 1.21	四緑友引 つちのと う 旧 1.20	三碧先勝 つちのえ とら 旧 1.19	二黒赤口 ひのと うし 旧 1.18	一白大安 ひのえ ね 旧 1.17	九紫仏滅 きのと い 旧 1.16	八白先負 きのえ いぬ 旧 1.15	七赤友引 みずのと とり 旧 1.14	六白先勝 みずのえ さる 旧 1.13	五黄赤口 かのと ひつじ 旧 1.12	四緑大安 かのえ うま 旧 1.11	三碧仏滅 つちのと み 旧 1.10	二黒先負 つちのえ たつ 旧 1.9	一白友引 ひのと う 旧 1.8	九紫先勝 ひのえ とら 旧 1.7

下弦			満月			上弦		
			三りんぼう			雨水		
						二の午		
						聖バレンタインデー		

			初午とは 西暦711年に、京 都の伏見稲荷大社で 誕生した日。			14日 井川スキー場腕山 ふれあい雪まつり (三好市井川町) 14日予定 義経夢想祭 (小松島市) 中旬予定 明谷梅林まつり (阿南市) 17日 祈年祭 (鳴門市大麻比古神社)			14日 井川スキー場腕山 ふれあい雪まつり (三好市井川町) 20日 四国酒まつり (三好市JR阿波池田駅周辺) 21日 ビッグひな祭り (勝浦町人形文化交流館) 23日 立江寺初会式 立江寺植木市 (小松島市立江町)			うおこりをいする 魚上水 つちのしやうつるおいおこる 土脉潤起 春一番ふく頃 かすみはじめてたなびく 霞始翳 ツバキ咲く頃 ヒバリ鳴く頃					
---	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	---	--	--

林鼓浪 (1887~1965) 昭和26年2月 徳島新聞連載 阿波歳時記2月の巻より抜粋 著者・絵師 郷土芸能研究家 林鼓浪 (1887~1965)			浦島太郎、柳に飛びつくカエ ルを見ている小野道風の立姿な ど料理人が手腕を競ったみずの もの芸術はしまいに金バクをコ イの背中に置くようになった。 惜しいことに、この催しは大正 に入つて絶えてしまった。現在絵 画や彫刻、生花とあらゆる作品 展が催されているが、こうした精 巧なみずもの芸術をいまの人が 見たら、どんなに目をさますこと か、おそらく感激にふるえない人 はなからう。		
--	--	--	--	--	--



取材デザイン編集 上野昇 (のちゃん) 四国大学 生活科学部講師			この時期、大学生は春休みに突 入する頃。4年生は就職活動を ほぼ終え、学生最後の思い作り に旅行へ出かけたり、社会人とし て身の回りの準備を始める。わが 四国大学のデザインコースの4 年生は最後の作品発表を2月5 日から7日の三日間、徳島市ポッ ポ街西口向かいにある四国交流 プラザで開催する。至る場所で発 表や講演が盛んになる2月、ぜひ 近場のイベントへ出かけてみては いかがだろうか。			今 梅咲く月 2月といえば、神山町阿野、阿 南市明谷などで、赤や白の梅の花 が膨らみ開花する季節。我が家 の庭先に植えている梅も美しい ピンクの花を咲かせ、甘い香りを 漂わせる。畑では黄色の菜の花も 見頃で、至る場所で春の訪れを感 じさせてくれる。そんな立春に先 駆けいち早く、小松島市芝生町 では、旗山を発着点とする義経 街道を巡る春の健康ウォークは 有名だ。		
---	--	--	---	--	--	---	--	--